

<p>第一課 四月一日 龍は、女に対して怒りを発し、女の残りの子ら、すなわち、神の戒めを守り、イエスのあかしを持つている者たちに対して、戦いをいどむために、出て行った。 黙示録 一二ノ一七 口語訳</p>	<p>第八課 五月二〇日 更にまた、万物の造り主である神の中に世々隠されていた奥義にあずかる務がどんなものであるかを、明らかに示すためである。 エペソ 三ノ九 口語訳</p>
<p>第二課 四月八日 また見ていると、見よ、白い雲があつて、その雲の上に人の子のような者が座しており、頭には金の冠をいただき、手には鋭いかまを持つていた。すると、もうひとりの御使が聖所から出てきて、雲の上に座している者にむかつて大声で叫んだ、「かまを入れて刈り取りなさい。地の穀物は全く実り、刈り取るべき時がきた」。 黙示録 一四ノ一四、一五 口語訳</p>	<p>第九課 五月二十七日 彼らは小羊に戦いをいどんでくるが、小羊は、主の主、王の王であるから、彼らにうち勝つ。また、小羊と共にいる召された、選ばれた、忠実な者たちも、勝利を得る。 黙示録 一七ノ一四 口語訳</p>
<p>第三課 四月十五日 わたしは、もうひとりの御使が中空を飛ぶのを見た。彼は地に住む者、すなわち、あらゆる国民、部族、国語、民族に宣へるべ伝えるために、永遠の福音をたずさえてき(た)。 黙示録 一四ノ六 口語訳</p>	<p>第一〇課 六月三日 真理によつて彼らを聖別して下さい。あなたの御言は真理であります。 ヨハネ 一七ノ一七 口語訳</p>
<p>第四課 四月二十二日 ここに、神の戒めを守り、イエスを信じる信仰を持ちつづける聖徒の忍耐がある。 黙示録 一四ノ一二 口語訳</p>	<p>第一一課 六月一日 また、もうひとりの御使が、生ける神の印を持って、日の出る方から上つて来るのを見た。彼は地と海とをそこなう権威を授かつている四人の御使にむかつて、大声で叫んで言った、「わたしたちの神の僕らの額に、わたしたちが印をおしてしまふまでは、地と海と木とをそこなつてはならない」。 黙示録 七ノ二、三 口語訳</p>
<p>第五課 四月二十九日 大声で言った、「神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばきの時がきたからである。天と地と海と水の源とを造られたかたを、伏し拝め」。 黙示録 一四ノ七 口語訳</p>	<p>第一二課 六月十七日 とりこになるべき者は、とりこになつていく。つるぎで殺す者は、自らもつるぎで殺されねばならない。ここに、聖徒たちの忍耐と信仰とがある。 黙示録 一三ノ一〇 口語訳</p>
<p>第六課 五月六日 なお、あなたがたは時を知っているのだから、特に、この事を励まねばならない。すなわち、あなたがたの眠りからさめるべき時が、すでにきている。なぜなら今は、わたしたちの救が、初め信じた時よりも、もっと近づいているからである。夜はふけ、日が近づいている。 ローマ 一三ノ一一、一二 口語訳</p>	<p>第一三課 六月二四日 この後、わたしは、もうひとりの御使が大いなる権威を持つて、天から降りて来るのを見た。地は彼の栄光によつて明るくされた。 黙示録 一八ノ一 口語訳</p>
<p>第七課 五月十三日 「われらの主なる神よ、あなたこそは、栄光とほまれと力とを受けるにふさわしいかた。あなたは万物を造られました。御旨によつて、万物は存在し、また造られたのであります」。 黙示録 四ノ一一 口語訳</p>	